

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十九年四月度 入選句（投稿総数千二百六十三句・小中学投句数四百五十三句）

特選

灯があたりさくらをほめる祖父の顔

大垣市

平田 ひなの(小六)

選者 高木 佐知子

ゆつくりと歩を進めながら夜桜見物をしている様子が目に浮かびます。ライトアップされた桜のふくらみを増した優雅な姿は、見る人すべての心を十分満たしたことでしょう。そんな桜の素晴らしさを知っているおじいさんは、一緒に見物している孫たちに語りかけます。その顔はというと、桜と同じくらい輝いていてしあわせ感も笑顔も大きく膨らんだ温かい一句ができました。

覚えてたひな人形の飾り方

美濃加茂市

山口

純奈(中三)

幼い頃は毎年お母さんと一緒にひな人形を飾り、毎日人形をながめたり歌を歌ったりして楽しんでたことでしょう。久しぶりにひな人形を飾ったのでしょうか、そのドキドキ感が伝わってきます。「覚えてた」の上五によつて、成長した作者が久しぶりのひな人形をぐつと引き寄せています。幼い頃を思い出しながら一味違う喜びのあふれる一句です。

ねこのこのとくべつせきだひなただよ

大垣市

すず木

そら(小二)

「ねこの」は春の季語。春になって生まれた子猫が、家族に見守られながら成長していくのです。暖かい日のあたる場所で寝ている猫の子のことはそつとして起こさないようにしているのでしょう。「とくべつせきだ」の中七に、そらさんの温かい気もちがこめられています。そらさんが家族から受けた温かさが、そらさんから猫の子へ注がれたのですね。やさしい気もちになれる一句です。

秀逸

春昼の太陽を浴び一眠り

美濃加茂市

大山

陽向(中三)

春うららゆつくりこいで遠回り

美濃加茂市

渡辺

留妃(中三)

花びらの枚数今年の希望の数

美濃加茂市

坂井

千乃(中三)

出番まっしまわれたままのこいのぼり

美濃加茂市

田中

麻衣(中三)

桜風出会いと別れすれ違う

美濃加茂市

中西

詩織(中三)

今までのつかれがとれる桜餅

大垣市

名和

美咲(中二)

ふんわりとせなかひとおし春の風

大垣市

水谷

紗彩(小六)

授業好き足どりかるい春の朝

大垣市

高木

ひなた(中二)

ばあちゃんがあまいの発見いちごがり

大垣市

小林

りん子(小四)

たんぽぽのふわふわとんでおひっこし

大垣市

恩田

かな子(小二)

入選

春風が近づく予感砂ぼこり	美濃加茂市	田代	彩華(中三)
卒業生旅立つ背中たくましく	美濃加茂市	柘植	雄大(中三)
夢を追いつみ出す一歩巣立ちの日	美濃加茂市	谷口	彩乃(中三)
夕日浴び黄金が包む麦畑	美濃加茂市	河路	健吾(中三)
土の中動き始める蛙かな	美濃加茂市	藤吉	英歌(中三)
春風がふわりお届け花の香	美濃加茂市	松岡	里音(中三)
いつもとは違う表情おぼろ月	美濃加茂市	原	綾佑(中三)
扉開け桜の香りを追いかける	岐阜市	三輪	舞香(中三)
満開の桜の花は笑顔生む	美濃加茂市	真鍋	百永(中三)
春風は母のように暖かい	美濃加茂市	糟谷	翔(中三)

入選

花粉飛ぶいつもの春がやってきた	美濃加茂市	小林	優雅(中三)
新年度制服の丈伸ばしゆく	美濃加茂市	柘植	幹大(中三)
ランドセル妹の背中をかくしてる	美濃加茂市	佐橋	心風(中三)
ふえていた畑の草も春休み	愛知県一宮市	菊池	海音(小三)
春風やにおいをはこぶ郵便屋	大垣市	西本	多恵(小六)
班長の卒業前日みんな待つ	大垣市	平田	ひなの(小六)
桜さく水門川にカメぷかぷか	大垣市	服部	泰治(小四)
やかたぶねことのねいろにはるうらら	大垣市	坂井	洸志(小二)
さくらさくゆめがいっぱい二年生	瑞穂市	青山	結奏(小二)
さくらばなかぜにはこばれ川くだり	大垣市	森	かなと(小二)

選者吟

遠足の弾み行く声列長し

佐知子